

第3回 新県立奈良病院整備検討委員会

日時：平成23年2月15日（火）

午後2時30分～

場所：春日野荘 畝傍

次 第

1 開会

2 挨拶

3 議題

（１）新病院の基本構想について

（２）その他

4 閉会

配布資料

資料1 新奈良病院整備に向けたアンケート結果の概要

資料2 新病院の整備に向けた構想の考え方

参考資料 新県立奈良病院の今後の検討方針

新県立奈良病院整備検討委員名簿

区 分	氏 名	役 職
学識経験者	河 口 豊	社団法人日本医療福祉建築協会長
	川 淵 孝一	国立大学法人東京医科歯科大学大学院教授
医科大学	吉 岡 章	公立大学法人奈良県立医科大学長
	榑 壽右	公立大学法人奈良県立医科大学附属病院長
関係団体	塩 見 俊次	社団法人奈良県医師会長
	今 川 敦史	社団法人奈良県病院協会副会長 (社会福祉法人恩賜財団 済生会中和病院長)
県立病院	川 口 正一郎	奈良県立奈良病院長
県	窪 田 修	奈良県副知事
	影 山 清	奈良県地域振興部長
	杉 田 憲英	奈良県健康福祉部長
	武 末 文男	奈良県医療政策部長
	川 崎 茂信	奈良県土木部長
	上 田 喜史	奈良県まちづくり推進局長

新奈良病院整備に向けたアンケート結果の概要

新奈良病院整備にあたり、基本構想の策定の基礎資料とするため、奈良病院職員へ新奈良病院への期待についてアンケート調査を行った。

- ・実施期間：平成23年1月19日(水)～1月28日(金)
- ・実施対象：県立奈良病院職員（嘱託職員含む）573名に配布 回答数403件（70.3%）

質問1，2で「病院のあり方」について、質問3，4で「施設整備」について、質問5で「新病院の目指すべき、理念、ミッション」について考え方を聞いた。

病院のあり方（質問1、質問2）

- ・どのような病院になるのが望ましいかという質問に対し、「6 医療事故の防止等、医療安全の徹底」、「7 医師や看護師、コ・メディカルスタッフ等を適正配置」、「8 業務改善等、労務環境の改善」の項目では『そう思う』と回答した人の割合が7割以上を占め、職員にとってゆとりのある環境づくりや、人材の確保・養成が共通してもとめられているとの回答が得られた。
- ・また、「2 救急医療」、「3 高度医療に対応できる体制」、「4 地域医療機関への支援」「9 院内連携（チーム医療）」等の項目においても、『そう思う』『どちらかと言えばそう思う』の回答割合が高く、地域医療連携を前提とした高度医療への対応を行うために、積極的に地域医療連携の向上に向け取り組んでいこうという職員の意欲が感じられた。

施設整備（質問3、質問4）

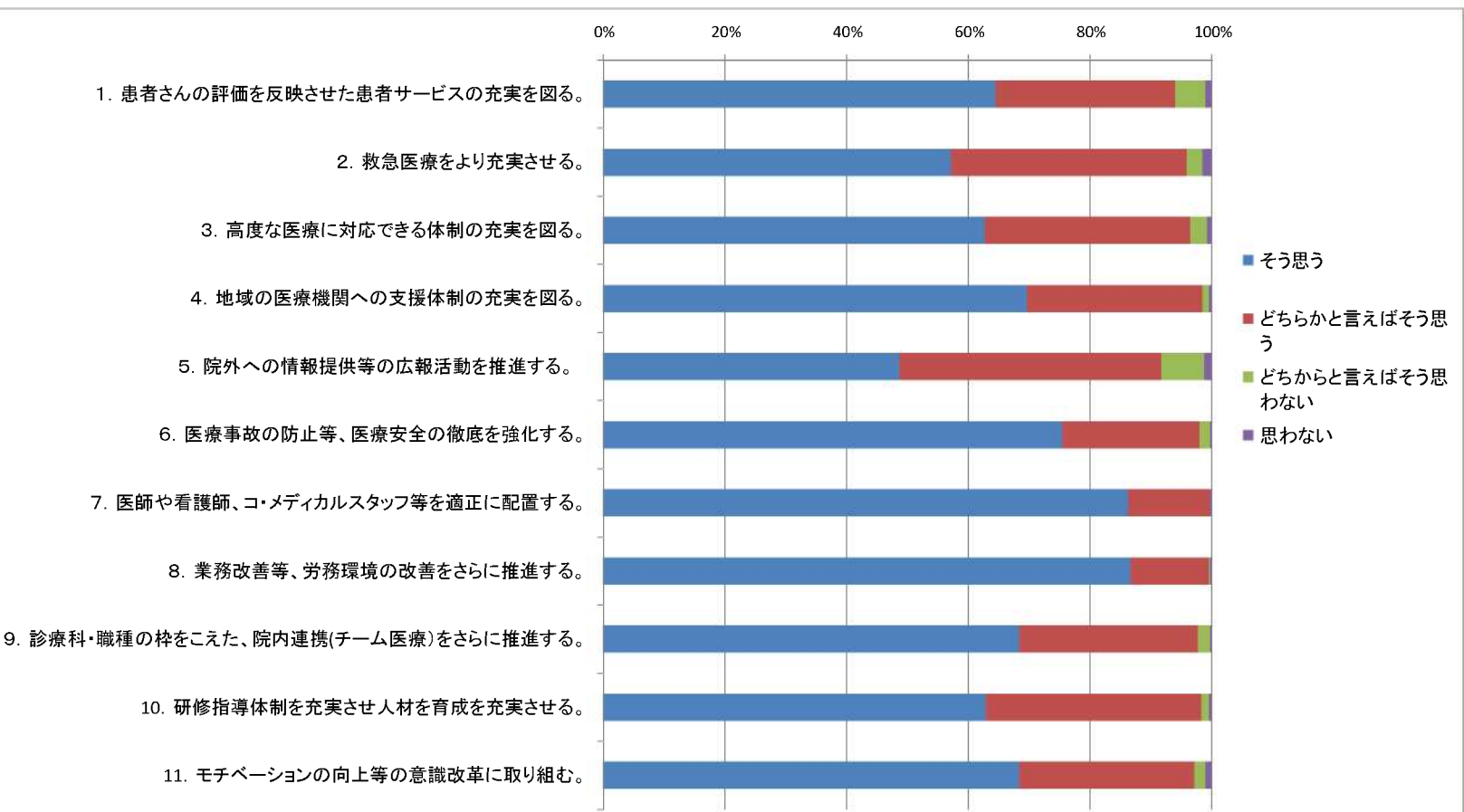
- ・病院整備への期待では、「5 診療スペースの拡充」、「7 駐車場スペースの拡充」の項目について『そう思う』と答えた人の割合がほぼ7割以上を占めており、病院敷地や診療スペースの拡充が望まれているとの回答が得られ、環境整備のためにも「早期の病院建設」について期待が持たれている。
- ・また、「8 災害時の医療提供体制を充実」について『そう思う』の回答割合が高く、職員の積極的な姿勢が感じられる。さらに「9 ドクターヘリの運用を実施」「10 へき地医療への対応を強化」については、現病院では、今まで直接関わっていなかった項目であるにもかかわらず、多数の肯定的な意見があった。

理念・ミッション等（質問5）

- ・質問5については、意見を可視化しわかりやすくするため、BSC（バランススコアカード）の4つの分野に分けて、主な意見をまとめた。
 - ①患者満足の視点では、やさしい病院や設備の充実など
「安心・やすらぎ」、「療養環境」
 - ②医療の質と効率の視点では、他病院との連携、救急や難病に対応する
「地域連携」、「高度医療」
 - ③職員の学習と成長の視点では、スキルアップや働いていて良かったといった
「スタッフの育成」、「働きがい」
 - ④経営財務の視点では、役割の理解などの
「効率的な運営」

質問1 これからの県立病院について、職員という立場からどのような病院になるのが望ましいと考えていますか。

	そう思う		どちらかと言えばそう思う		どちらからと言えはそう思わない		思わない	
1. 患者さんの評価を反映させた患者サービスの充実を図る。	256	64.5%	117	29.5%	20	5.0%	4	1.0%
2. 救急医療をより充実させる。	225	56.7%	153	38.5%	10	2.5%	6	1.5%
3. 高度な医療に対応できる体制の充実を図る。	250	63.0%	135	34.0%	11	2.8%	3	0.8%
4. 地域の医療機関への支援体制の充実を図る。	277	69.8%	115	29.0%	4	1.0%	2	0.5%
5. 院外への情報提供等の広報活動を推進する。	194	48.9%	172	43.3%	28	7.1%	5	1.3%
6. 医療事故の防止等、医療安全の徹底を強化する。	301	75.8%	90	22.7%	7	1.8%	1	0.3%
7. 医師や看護師、コ・メディカルスタッフ等を適正に配置する。	345	86.9%	54	13.6%	0	0.0%	1	0.3%
8. 業務改善等、労務環境の改善をさらに推進する。	345	86.9%	51	12.8%	1	0.3%	1	0.3%
9. 診療科・職種の枠をこえた、院内連携(チーム医療)をさらに推進する。	273	68.8%	117	29.5%	8	2.0%	1	0.3%
10. 研修指導体制を充実させ人材を育成を充実させる。	250	63.0%	141	35.5%	5	1.3%	2	0.5%
11. モチベーションの向上等の意識改革に取り組む。	262	66.0%	110	27.7%	7	1.8%	4	1.0%
12. その他								
・少なくとも最低限の設備を充実させる。								
・患者教育、指導の充実								
・人員確保								
・業務の効率化、書類の処理の軽減等を進める。								



●もし良ければ、詳細な意見を記載してください。

・職員の満足できる労働環境を整え、いつも笑顔で患者様に対応できるようになればいいと思う。そのような病院に自分も家族も入院したいと思うし、県民1人1人がみんなそう思っていると思う。

・患者や職員にやさしい病院作りが必要である。充実させるところは、専任職員を配置し、目標管理させる。

・すべての基礎は、人材育成と意識の心掛けである。自分自身、環境等による制限・制約の解除がモチベーションを向上させる。

・接遇やマネジメントなど、経営的な研修を積極的に行う。病院機能評価の受審。高度医療や患者サービスにおいて先駆的な病院の施設見学や管理トップの講演依頼。インシデント、アクシデントはPC管理して、院内で共有する。

・患者様の評価は大切であるが、全てを反映させることは、ソフト面だけではできないと考える。医師の医療サービスへの考え方やチーム医療についての考え方を改革していく必要もあるのではないかな。

質問2 質問1について、それを実現するためには具体的にどのような取り組みが必要であると考えますか。

- ・研修指導体制の充実について、他部門の見学(業務内容を知る)
- ・今行っているような説明や交流会を行うこと。建物が古くても職員が生き生きと働ける雰囲気作り。職員への集合教育(受付、セクレタリー・クレーク含む)接遇教育を定期的に計画すること・院内研修、院外研修に積極的に参加。スタッフの人数を増やす。
- ・職員が人を思いやる気持ちを忘れているうちはダメだと思います。職員が職員を思いやれない組織が、県民へ最良のパフォーマンスができるとは思えません。
- ・一人ひとりが他の病院のスタッフとネットワークを持ち、他の病院がどのようなことをして病院をよくしているのかを知ることにより、県立病院に何が必要で、どうしていけば良いかを考え、話し合っていく必要があると考えます。
- ・病院の目標を掲げ、患者様にも分かるようにし、評価してもらう。業務を各職種ごとにきっちり振り分けることで責任が持てるのではないかな。
- ・リーダーを育成すること。研修等、最新の情報を早く取り入れるようにして、地域に情報を発信できるように研修会を開催すること。マンパワーの充実、充足を早期に行うこと
- ・職員1人1人が気持ちにゆとりが持てる環境。欠員のない職場。医師もナースもコメディカルも、時間と気持ちにゆとりがないと優しく対応し、正しく判断できないと思う。そうなると、いくら新しいきれいな病院であっても患者は選んでくれない。
- ・これまでも行っているようにアンケートなどで患者、家族、または働く人の意見を広く求めて、改善していけるとよいと思う。人と人のつながりに魅力があれば、人は自然と集まってきて理想とする病院が実現すると思う。周辺の住民と協力してするイベントなど、もしくは参加してもらえるイベントなどの企画を充実するのも良いと思う。
- ・県立病院の立場を広報等で県民に知らせ理解を得るようにする。
- ・救命センターと本院との連携
- ・患者サービス部門は医事課より独立させ、ソーシャルワーカーなどの専門家を入れる。人材育成、教育指導のための教育センター、トレーニングセンターが必要。患者の声箱のように職員の声箱を作り、病院経営への参加。病院全体での目標管理大会など計画し、優秀部門を評価する。

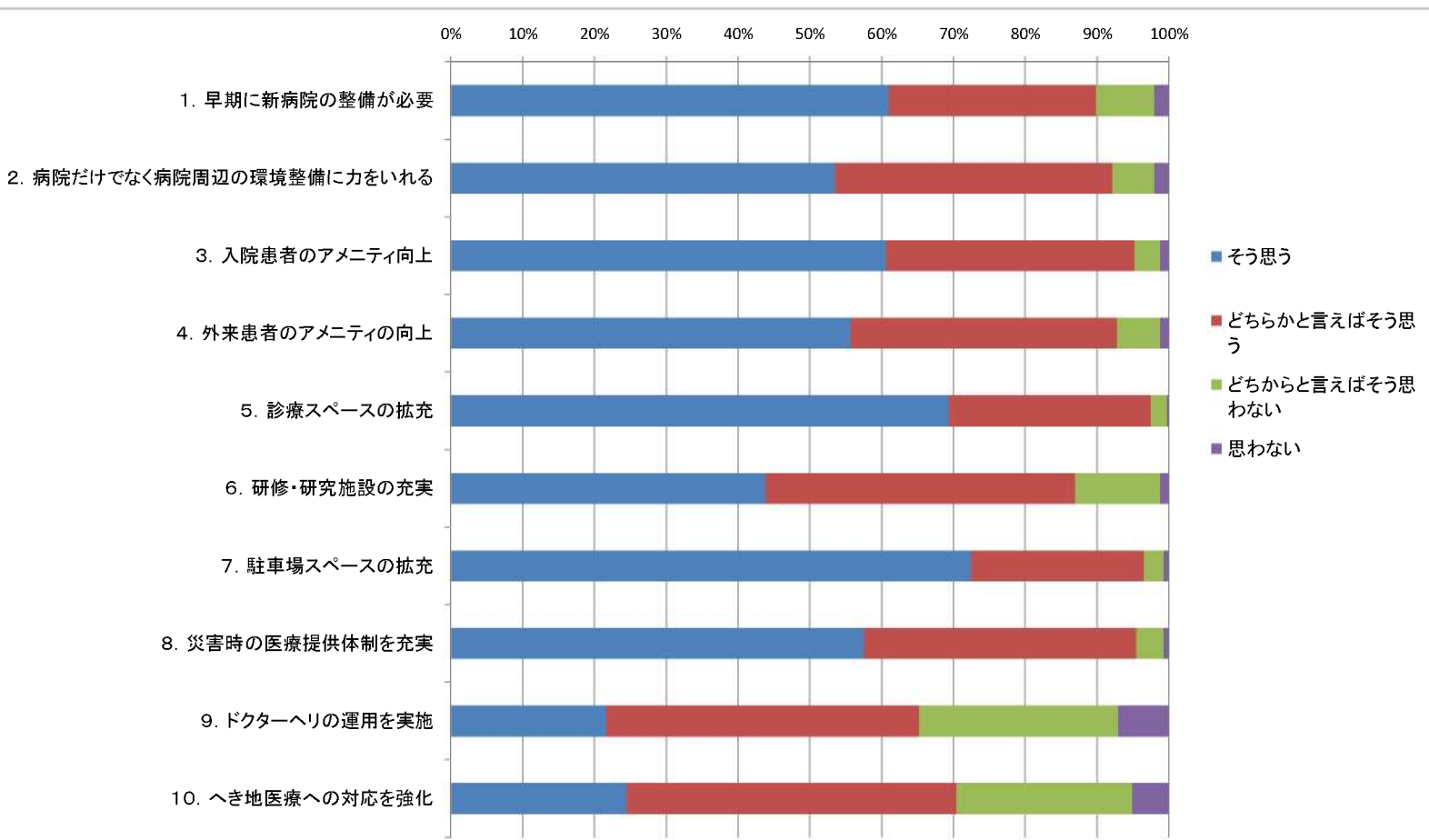
質問3 県立奈良病院の建替整備に関して期待する点をお答えください。

	そう思う		どちらかと言えばそう思う		どちらからと言えはそう思わない		思わない	
1. 早期に新病院の整備が必要	241	61.0%	114	28.9%	32	8.1%	8	2.0%
2. 病院だけでなく病院周辺の環境整備に力をいれる	210	53.2%	152	38.5%	23	5.8%	8	2.0%
3. 入院患者のアメニティ向上	241	61.0%	138	34.9%	14	3.5%	5	1.3%
4. 外来患者のアメニティの向上	222	56.2%	148	37.5%	24	6.1%	5	1.3%
5. 診療スペースの拡充	276	69.9%	112	28.4%	9	2.3%	1	0.3%
6. 研修・研究施設の充実	174	44.1%	171	43.3%	47	11.9%	5	1.3%
7. 駐車場スペースの拡充	289	73.2%	96	24.3%	11	2.8%	3	0.8%
8. 災害時の医療提供体制を充実	229	58.0%	151	38.2%	15	3.8%	3	0.8%
9. ドクターヘリの運用を実施	85	21.5%	172	43.5%	109	27.6%	28	7.1%
10. へき地医療への対応を強化	91	23.0%	171	43.3%	91	23.0%	19	4.8%
11. その他	・職員のアメニティの向上も必要。 ・家族と一緒に宿泊できる場所(ターミナル期や、在宅の練習に) ・耐震性 ・看護学校の充実 ・新病院へのアクセスの確保。 ・地域連携室の強化、外来化学療法室の充実。							

●もし良ければ、詳細な意見を記載してください。

・病院内、公園の設置、ウォーキング・散歩道等。院内図書館の充実、外来入院患者のための図書館(待ち時間等に利用)、多目的ホール(研修室、研究施設、会議室等、福利厚生にも使用可能なもの)
・30年後にも利用できる、最新式の設備、増改築を見据えた設計、レストラン、コンビニなど商業施設の誘地、運動場、体育館などスポーツ設備の充実。
・外来患者が通いやすいようなアクセス(駅近、送迎バスなど)が必要。

・アメニティに関しての苦情も多く、現病院では対応しきれていない。また、老朽化や耐震機能が基準を満たしていないことで安全性が保障されていない中、診療を行うことはリスクが大きいと思う。
・地震対策を強化すべき。電子カルテ化・システムのトラブルが起きない高度なシステムの導入。
・現地建替えは時間と費用面で不利と思う。とにかく早期に建設できる方法が一番です。老健施設のようなバリアフリー、ユニバーサルデザイン、案内ピクトの充実。



質問4 質問3について、それを実現するためには具体的にどのような取り組みが必要であると考えますか。

・外来、検査部門が1,2階になる場合、エスカレーターの設置。外来診療～隣の患者の話などが聞こえず、プライバシーが守れるスペース。待ち時間を少なくするため、ポケベルや電光掲示板の設置。電子カルテ導入。図書室(患者用や職員用)を充実する。入院患者の病室～各部屋にトイレ、洗面を設置。売店等の外部業者(コンビニ)導入で24時間体制に。医大のようにドトールコーヒーなど喫茶スペースを作る。
・現時点での問題点(患者、職員が求める病院)を新病院建設に活かすのは当然と思われるが、10年後、20年後を見こして今の問題に対処していかないと同じことの繰り返しだと思います。建物自体の老朽化による問題はある程度仕方ないと思いますが
・災害時でも使用できる体育館のような広いスペースや、ソファが簡易ベッドになるものや、廊下を広くとって処置等の対応が可能になるよう、スペースを大きくとっていく必要がある。
・手術室から救命センター(ICU)やNICUや産科病棟や外科病棟など患者搬送がスムーズにできるエレベーターの設置(手術室直通専用エレベーター)救急外来・処置室が十分でない。
・診療スペースの充実とプライバシーの確保が必要。指導スペースや説明(カンファレンス)の部屋があればいいと思う。
・通院の利便性を高めるために公共交通網の整備が必要。病院の基本設計から、患者、職員の動線、物品・薬品の搬送システムを考慮する。
・バリアフリーを考えて設計する。患者さんの意見を聞く。
・寮を整備し、管理棟に活用する。
・民間活力を積極的に導入する。新病院の役割を明確にする。
・他の病院をたくさん見て、良い点、改善したい点を参考にして新しい病院を考えてほしい。実際に働いている人に意見を求めるのは良いと思う。出来ないこともあると思うので、奈良というこの土地に特化した病院となることの方がかえって充実した施設になると思う。
・今の環境では、全てを満たすのは難しいと思う。やはり新病院に期待する。

患者満足 の 視点

安心・やすらぎ

- ・「患者様が県奈良を受診して良かったと思える病院」やさしい病院”。
- ・ソフト・ハードの両面において、患者さんの目線で考え、新病院は「患者さんに優しい病院」。
- ・ゆとりのある看護で患者の立場に立って物事を考える。
- ・人を大切に心と心が通い合う病院。
- ・患者さん中心のあたたかい病院。
- ・患者様が少しでも安らげる居心地のよいと思われるような病院の雰囲気や施設づくりを目指さなければいけないと思う。
- ・患者様が病気に対しての不安が少しでも軽減できるよう、雰囲気明るくする。
- ・県民が(他府県からももちろんであるが)信頼できる病院。
- ・県民の病院として安らぎと安心を提供したい。
- ・患者、家族が安心して治療、看護が受けられる病院。患者が満足できる病院。
- ・県民が安心して受診し、治療に専念できる環境。
- ・患者とゆっくり向き合える病院。
- ・患者本位のぬくもりのある病院。

療養環境

- ・「困った時の県奈良」 患者が過ごしやすい病院。
- ・良い医療をより多くの患者さんへ提供できる病院。
- ・安全、安心、満足できる療養環境を整える。
- ・患者中心の看護ができ、満足度が高い病院。
- ・どの患者様にも同じ医療が提供できる病院。
- ・入院患者様が快適に入院生活を送れる病院。設備の整備、高度でムダのない医療機器、for you and for me 病院に関係する全ての人が満足できる場。
- ・患者、家族が安心して通院・入院できる設備の充実と立地条件。
- ・患者の立場に立った医療、働いているスタッフが入院したいと思う病院。
- ・県民および患者様に信頼いただける医療人。職員全員明るいと思われる病院。
- ・県民のニーズに柔軟に対応できる病院、県民のための病院、患者にも学生、職員にもここで働きたいと選ばれる病院。
- ・スタッフの数、スペースが十分に余裕をもって患者さんを受け入れられる病院。

その他

- ・情報公開

医療の質と効率の視点

地域連携

- ・奈良県の基幹病院、紹介患者の受け入れられる体制。
- ・高い医療レベルを求めて、紹介状を手にして受診する病院。
- ・地域連携基幹病院。
- ・チームや多職種との連携を密にし、質の高い医療の提供ができる、地域から信頼され、愛される病院。
- ・地域と協力しながら奈良県を支える医療体制と専門性を高める病院。
- ・リハビリ、在宅医療など退院後医療サービスを連携して充実。
- ・状態が落ち着けばいつまでも入院させるのではなく他の医療機関への転院。
- ・入院治療に特化、外来業務は縮小、基本的に退院後の通院は近医で行ってもらう。
- ・他病院や地域との連携。
- ・地域密着型後方支援病院。

高度医療

- ・紀伊半島の中心病院。ドクターヘリ。
- ・最新のシステム、機器を備えた高度医療病院。
- ・難病や高度救命救急医療、高齢化社会に対応した病院。
- ・一般病院ではできないこと。救命センターやNICU等超急性期、重症患者を治療できる第一線病院。
- ・急性期病院としての役割を明確にし、二次・三次救急を断らない体制。
- ・急性期病院として十分な設備、人員を確保。
- ・救急医療(小児科)に力を入れる。
- ・救急医療や高度な医療体制を充実させることで県民の健康を守る。
- ・産科救急の充実。高度の医療・看護の提供、チームワーク、時代のニーズに応える柔軟な体制。
- ・人員確保し24時間対応できる高度医療、看護の提供、体制、産科救急の充実。
- ・高度医療(救命救急、周術期、周産期、腎センター、集学的がん治療)をメインに置き、北部の急性期を担う機関。
- ・他の病院との差別化を図り、救命救急に重点を置き北和最大の基幹病院とする。
- ・地域連携の推進をはかり、充実した救急医療体制と大規模災害に備えた病院。
- ・北和地区の特定機能病院。
- ・この病院に特化した技術と装置を導入する。
- ・いつでも、いかなる状況でも常に患者を受け入れられる病院体制。
- ・各部門のエキスパートを備えた高度医療病院。
- ・北和地区のみならず、周辺の府県からも患者が紹介されてくるハイレベル病院。全国の自治体病院のモデルとなる病院。

職員の学習と成長の視点

スタッフの育成

- ・奈良県(北部)で中心的な医療機関になるよう職員全体に意識改革をする病院。
- ・プロ意識の向上を図れる病院。
- ・医師・看護師スタッフの教育、人材の確保、看護師の教育。
- ・働いている仲間を大切にできるような人として大切な心を持った職員が育つ病院。
- ・最新の医療・看護に向けた、スタッフの人材育成が大事。
- ・専門職としての能力向上に努める。
- ・全職員が確実な技術の提供を行えるスキルの向上を図る。
- ・他病院からの研修を受け入れられる人材づくり。

働きがい

- ・長く働き続けることのできる病院。
- ・やりがいを感じる病院。
- ・スタッフの満足できる病院。
- ・スタッフを大切にする病院。
- ・長く働くことができるように、子育てしながら働ける病院。
- ・女性が働きやすい。
- ・事務系職種の継続性。
- ・看護師が満足して働ける。他の人に自慢できるような病院、人に勧められる病院。
- ・個人個人がモチベーションを上げ、積極的に研修等の参加や技術の向上を図り、ステップアップしていける。
- ・職員がこの病院で働いていて良かったと思える病院。
- ・職員一人一人の働きが有益なものとなるように。
- ・様々な職種が連携して色々な観点から患者を診て患者様のニーズに合わせた看護を提供していく。
- ・多くの看護師が集まってくる病院。やめない病院、やめても結局戻ってくる病院。
- ・スタッフが働きやすい病院。
- ・スタッフにあたたかい病院。
- ・常に意見を聞いて、みんなで考え、どうすれば良い方向へ向かっていくのか話し合える病院。協力し合える病院。病院の全スタッフが働きやすいと思える整備、労働条件が整っている。
- ・専門的にかつ自己のもつビジョンが遂行できる。
- ・全てのスペースを広く、スタッフのことを考えた病院。

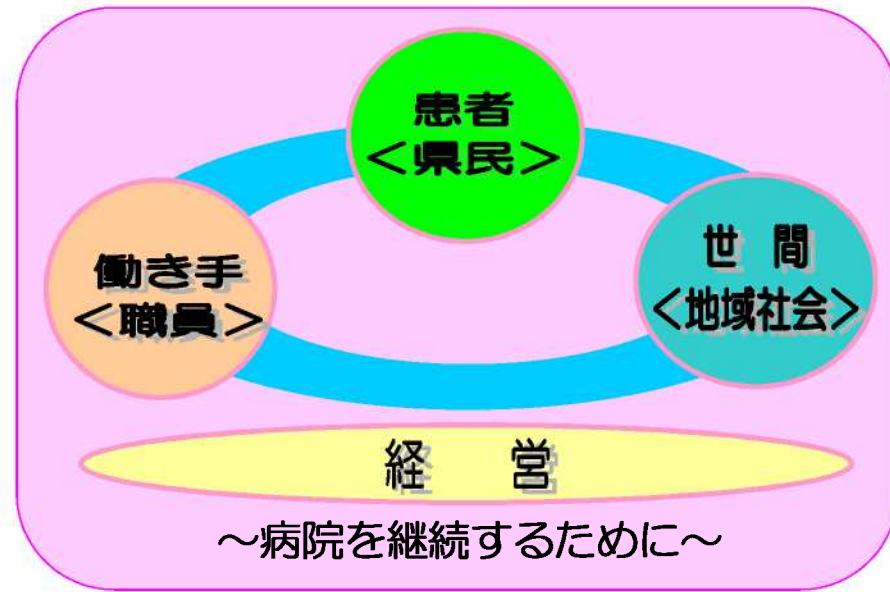
経営・財務の視点

効率的な運営

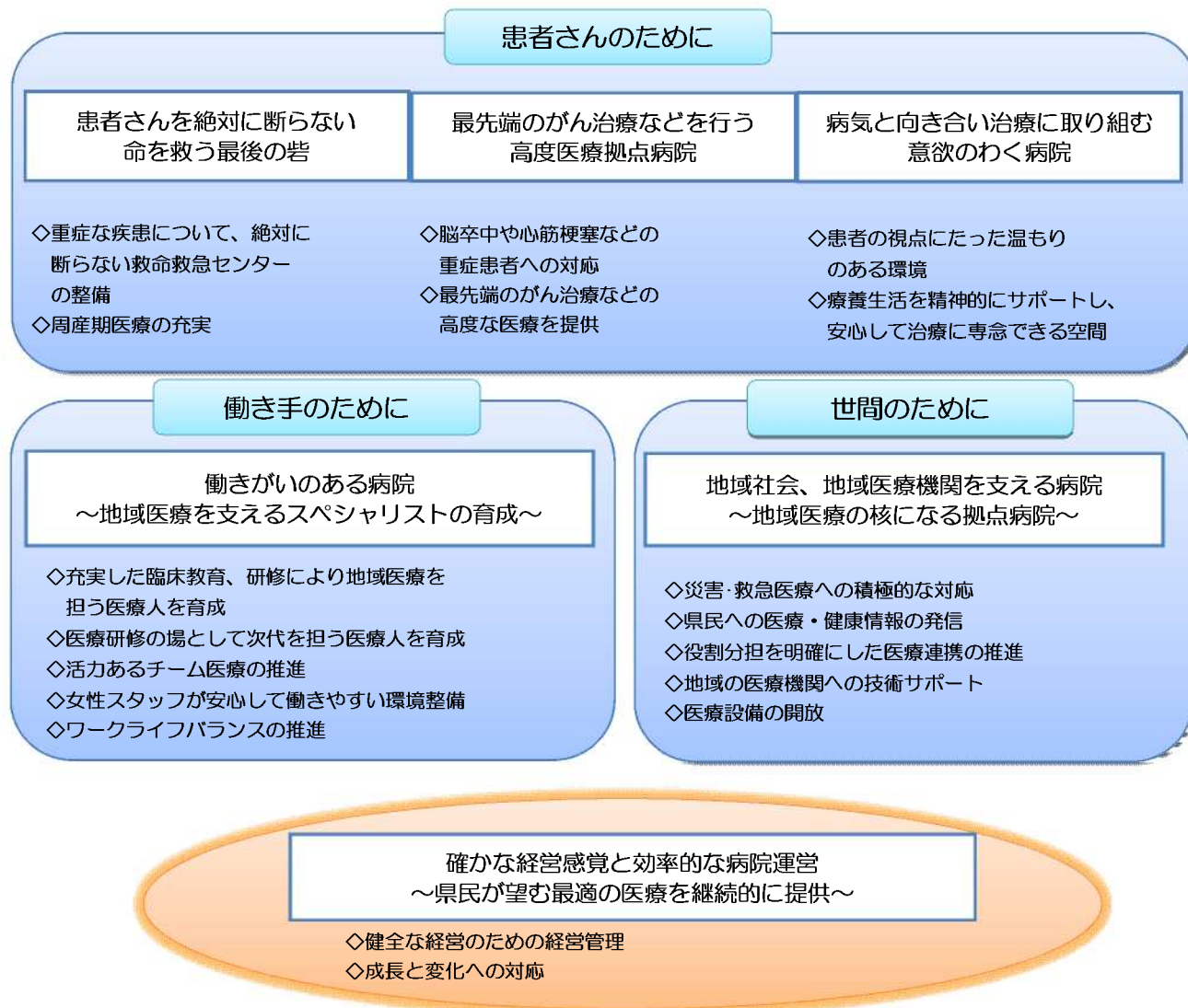
- ・有効な投資がそれに見合った収益を確保する。
- ・従業者が生き生きして、働きやすい業務に専念できる人と時間、金、設備を充実させれば安らぎと安心を提供できる病院。
- ・システム化できる部分はしていき、重複作業をなくしていく病院。
- ・病院の役割を全スタッフが共同理解し、同じ方向で考え医療にあたる。
- ・無駄のない会議運営。
- ・県民に利益を還元するべきと考える。

新病院の整備に向けた構想の考え方

I. 新病院のビジョン (H23年2月7日 有識者会議資料より)



新病院のビジョンは、①新病院を患者・患者家族として利用される県民の立場から、②病院が果たすべき社会的責任の観点から、③病院で働く多くの職員の立場から検討を行い、設定しました。また、経営に関するビジョンは、継続的に地域に貢献するための基盤を整備する観点から設定しております。

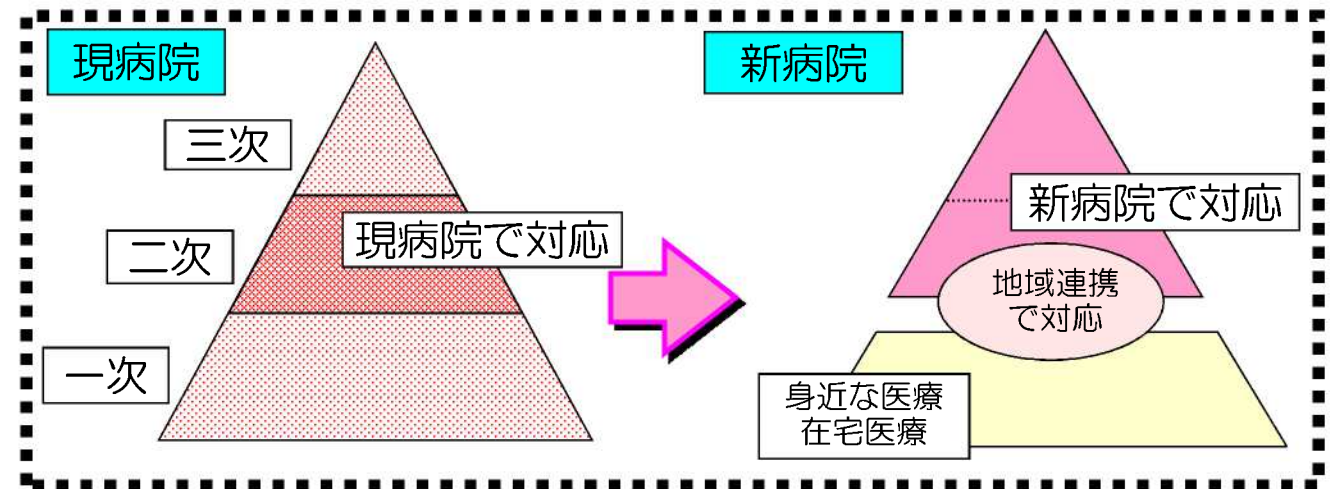


II. 新病院の全体的機能

1. 地域連携と病院機能

(1) 病院機能概要

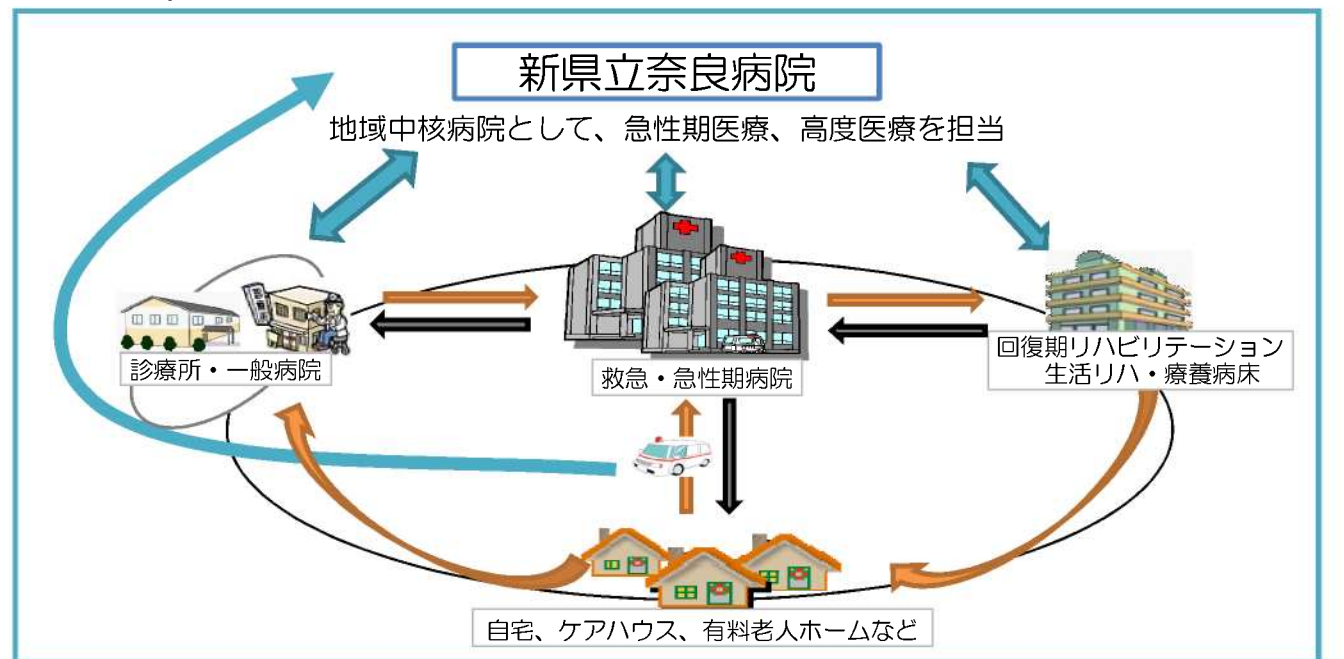
新病院は、北和地域の医療機関と連携し、地域医療をささえる中核病院として、地域住民に質の高い医療の提供を目指し、急性期医療や高度医療等に対応する病院として整備します。



(2) 地域連携と新病院の位置づけ

新病院は、地域の各医療機関と機能に応じた役割分担を行い、相互に連携して患者一人ひとりの診療にあたることで、質の高い医療を地域のすべての方に効率的に提供することを目指します。

北和地域の医療機関の連携のあり方について協議し、地域住民の安全安心な医療の提供を確保することを目的とする「北和地域医療連携協議会」を平成23年1月26日に設置しました。



(3) 地域の身近な医療の提供について

地域に必要とされている医療等を守るため、地域の住民や奈良市医師会、有識者、県、奈良市等で構成する協議会を立ち上げ、地域の医療・介護を提供するための取り組みを進める。

2. 新病院が担うべき医療分野

ビジョンを実現するために新病院が具体的に担う医療分野やその概要は以下のとおりとなります。

①脳卒中、心筋梗塞およびその他救急医療に関する重要疾患（外傷・熱傷・中毒等）への対応

- ・新病院のコンセプトである「救急医療の最後の砦」として新病院を整備するために、救急医療の中でも特に初療対応が重要となる脳卒中と心筋梗塞について、地域内での救急医療完結に必要な機能を新病院で対応します。またそれらに次いで重要である外傷・熱傷・中毒等については、手術・処置等が必要となるような重症症例への対応を中心とします。

②がん医療

- ・医療需要が多く、特に県内で診療が完結できていない疾患について、重点的に医療機能を整備することにより、県民・地域医療機関からの信頼を確保し、県内完結によるがん医療対応をすすめます。

③周産期医療

- ・公的医療機関の使命の一つである周産期医療については、新病院を核とする地域医療連携体制により、原則として全ての疾患に対応します。

④小児医療

- ・周産期医療と同様に公的医療機関としての使命である小児医療については、県内で診療が完結できていない疾患を中心に医療機能の整備を行うとともに他医療機関との地域医療連携をすすめ、県民・地域医療機関からの信頼が得られる体制を整備します。

⑤県内で急性期における医療サービスが不足している疾患への対応

- ・救急医療、がん（悪性新生物）等の①～④以外の疾患のうち、県内での医療サービス提供体制が不足している疾患について、手術・処置等の積極的な治療が必要な重症症例への対応をすすめます。

⑥その他、新奈良病院で検討すべき医療機能

- ・今後、感染症医療、精神医療、緩和ケア医療について引き続き検討を行います。

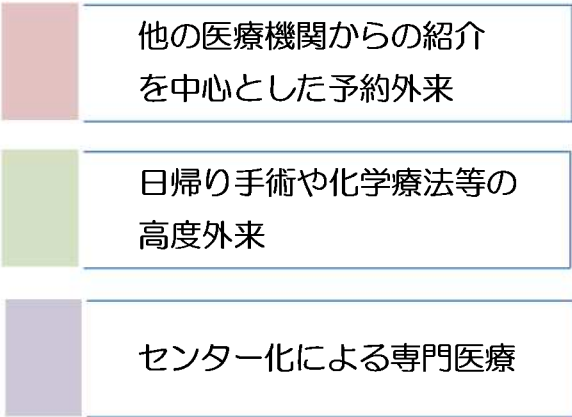
3. 入院医療機能

新病院は、北和地域における病病連携の中心的な役割を担う「中央病院」、患者さんを断らない救命救急システムの最後の砦となる「基幹病院」、脳卒中や心筋梗塞などの重症疾患への対応や最先端のがん治療を行う「高度医療拠点病院」と位置づけ、質の高い医療の提供を目指しています。

- ・現病院の入院機能を単に移行させるのではなく、急性期・高度医療において、地域で質的・量的に不足している分野について新たに対応します。
- ・現病院で診療を行っていた患者のうち、手術や処置等の必要性が低い患者や急性期が終わりリハビリテーションが特に重要と考えられる患者など、回復期・慢性期の患者は、その状態に応じて最適な医療が受けられる医療機関との地域連携をすすめて対応します。

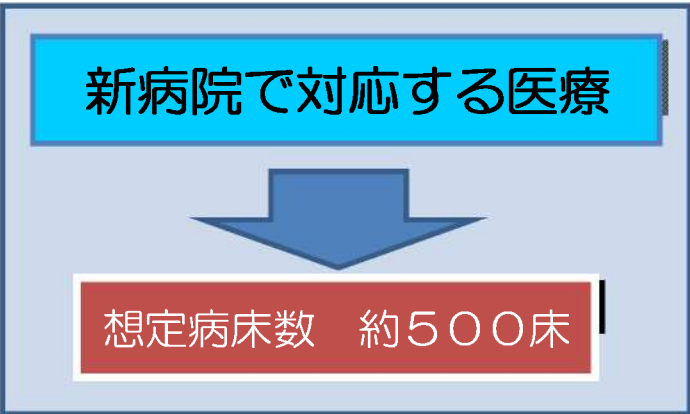
4. 外来医療機能

新病院では、北和地域の医療を支える中核病院として、地域の医療機関と連携し、地域住民に質の高い医療を提供するため、紹介型・高度・専門医療の外来とします。



5. 病床数

新病院の病床数は、北和地域における医療ニーズ、提供されている医療サービス量、受療動向等のマーケティング調査を踏まえ、地域で不足している分野を把握し、それを補完するために必要な病床数として、現時点では、約500床程度を見込んでおります。



新県立奈良病院における新たな機能について

○感染症医療

近年の鳥インフルエンザの発生の増加により、人への感染のリスクが高まっている。また、新たな感染症の発生にも対応するため、感染症医療機関の役割は、一層、重要性を増している。

北和地域(奈良医療圏、西和医療圏)では、平成20年3月以降、感染症医療機関が無い状況であり、新県立奈良病院において、感染症病床の整備を行う必要がある。

また、現在、県内では、合併症を持つ結核患者(透析が必要な患者、妊婦など)を治療できる医療機関が無い状況にあり、早急な整備がもてめられている。新病院での感染症病床の整備にあたっては、結核合併症の対応を含めて検討をすすめる。

○精神医療

県立奈良病院では、救命救急センターへ搬入された薬物中毒患者、自殺行為者等に対する再発防止に向けたケアや、がん患者に対する精神症状の緩和ケアに対応するため、平成23年4月1日より、新たに診療科を設置する予定。

今後、周辺病院から紹介を受けた身体的治療と精神的治療を同時に必要とする患者に対する治療について、病床設置も含めた受入体制の検討をすすめる必要がある。

○緩和ケア医療

新県立奈良病院は、北和地域における質の高いがんの治療を行う高度医療拠点病院として整備することとしている。

また、拠点病院として、臨床研修や地域の医療関係者に対する教育・研修機能が必要であるため、高度医療から緩和医療も含めた一貫したがん治療ができる人材の養成にも取り組む必要がある。

そのため、緩和ケア病床も含めた機能の整備をすすめる。

【県内緩和ケア病床の状況】

- ・国保中央病院 (田原本町：20床)
- ・市立奈良病院 (※予定 奈良市：10床)
- ・西奈良中央病院 (※予定 奈良市：20床)

北和地域医療連携協議会

1. 目的

北和地域の医療機関の連携のあり方について協議し、地域住民の安全安心な医療の提供を確保することを目的とする。

2. 主な協議内容

北和地域での医療機関の役割分担や連携のあり方

3. 協議の枠組み

会 長： 榊 奈良県病院協会長（県立医大附属病院長）

メンバー：

奈良医療センター、市立奈良病院、済生会奈良病院、奈良社会保険病院、近畿大学医学部奈良病院、高の原中央病院、西の京病院、西奈良中央病院、奈良西部病院、

奈良県病院協会、奈良市医師会、大和郡山市医師会、生駒地区医師会、

奈良市保健所、郡山保健所、県立奈良病院、県立三室病院

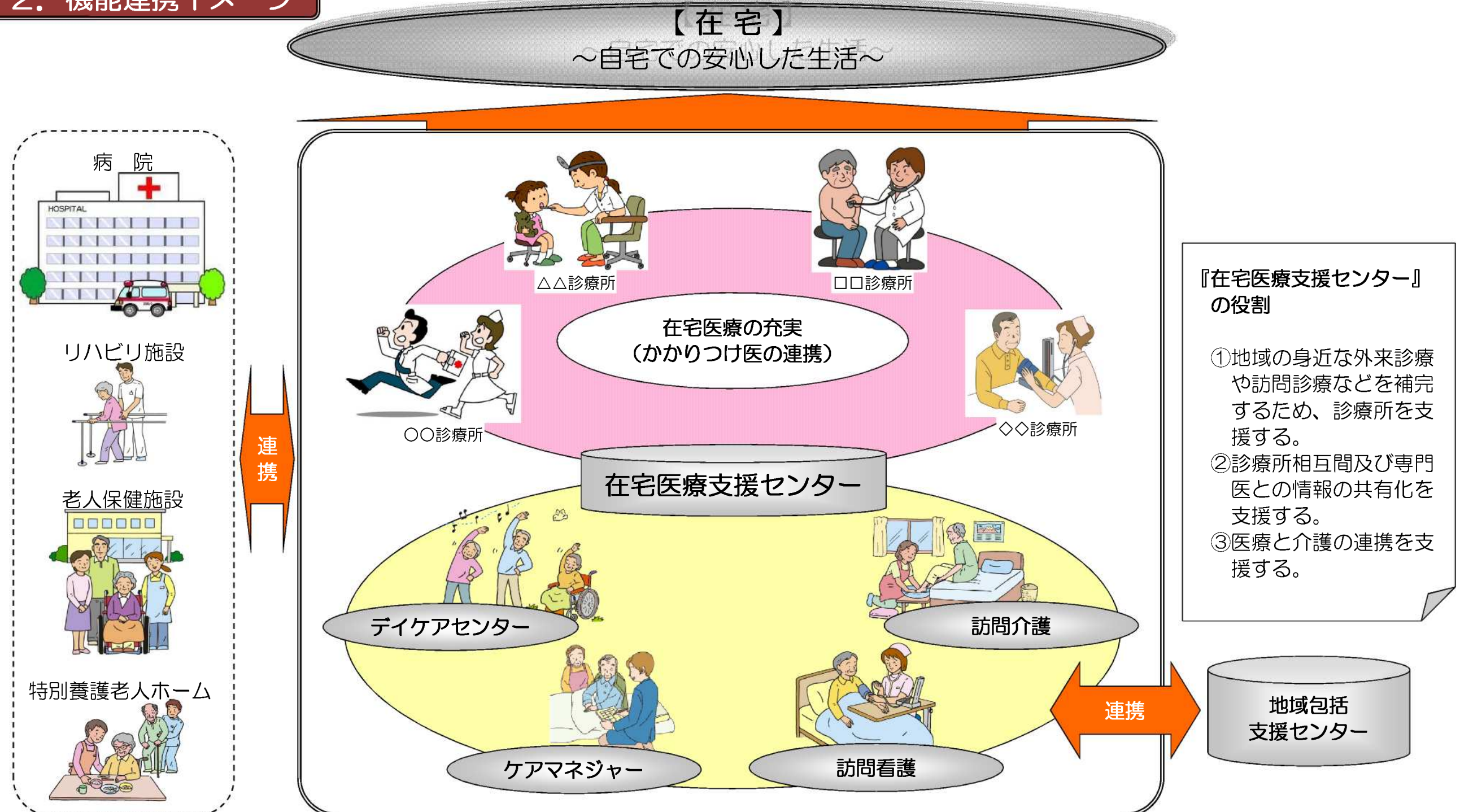
※今後、検討状況に応じて、他の医療機関にも参加をお願いする予定。

地域の身近な医療の提供について

1. 進め方

地域に必要とされている医療等を守るため、地域住民や奈良市医師会、有識者、県、奈良市等で構成する協議会を立ち上げ、地域の医療・介護を提供するための取り組みを進める。

2. 機能連携イメージ



Ⅲ. 敷地選定

1. 候補地評価

新病院の候補地として、これまで現地建替と移転新築の両面で検討を行ってきました。その結果、現地建替えでは、①工事期間が長期に及び医療体制の整備に遅れをきたす。②既存構築物があるため、新病院の配置に制約を受け、将来の拡張性に課題がある。③工事を行いながら診療を続けることは患者や職員への負担が大きい。などの課題があります。新病院では、現在及び将来の医療の急速な進展に対応するために、余裕のある敷地が必要であり、また、新病院を中心とした医療体制の早急な整備が求められていることから、新病院整備地として、六条山地区への移転が必要ではないかと考えております。

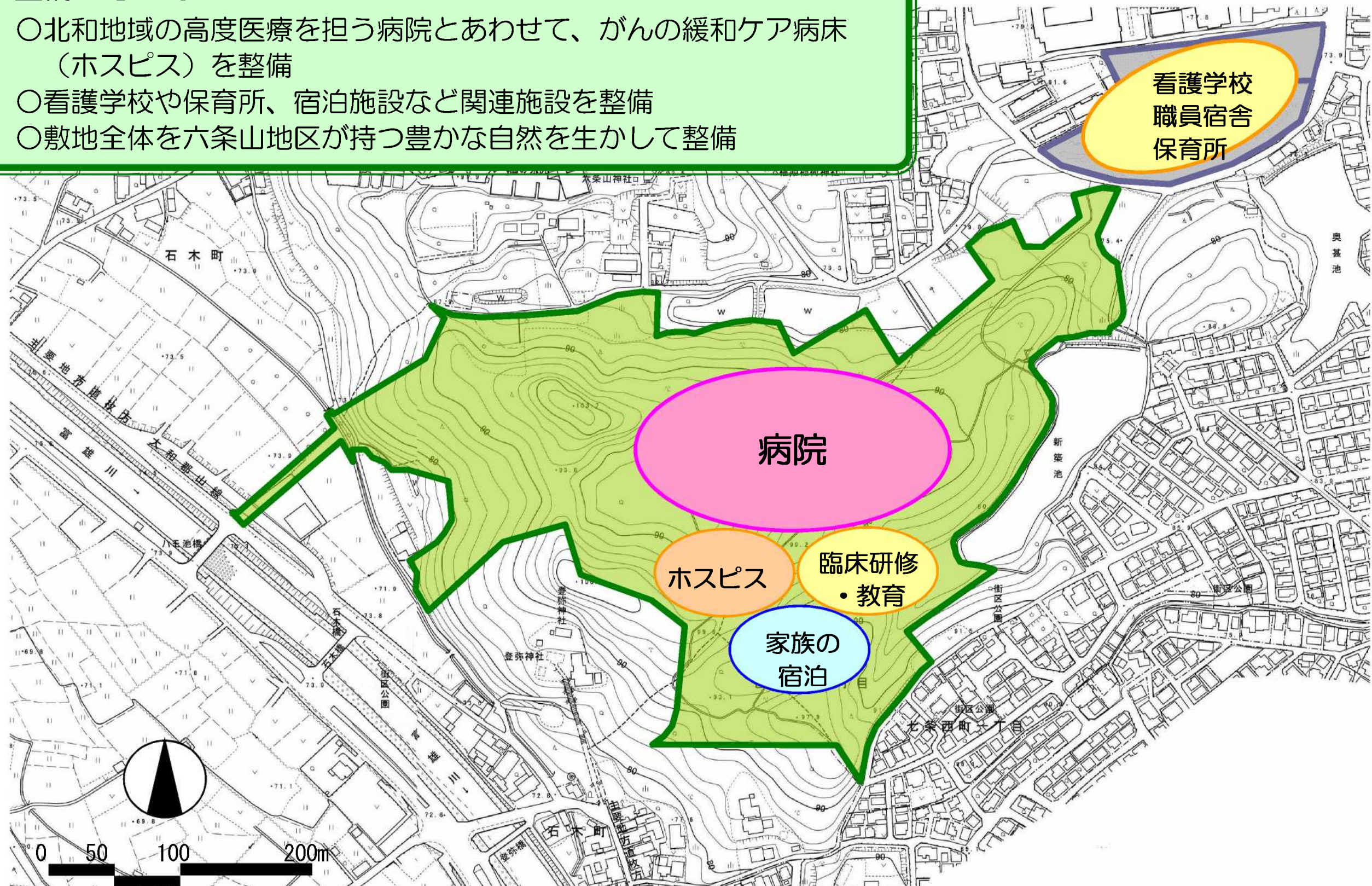
凡例：　＜＜　特に優れている、　＜　優れている、　＝　ほぼ同等

比較検討項目		比較検討の内容	平松地区（現地建替） （奈良市平松1丁目）	比較検討	六条山地区（移転） （奈良市七条西町2丁目他）
病院機能	① 病院敷地面積	新病院の機能を効果的・効率的に発揮するために適した病院施設の配置計画の可能性や将来の増改築等の拡張性などを考慮した病院敷地面積の妥当性について	・敷地は約5ha ・既存建築物があるため、病院配置の制約を受ける ・将来の増改築等の拡張スペースが不足	＜＜	・敷地は約12ha+1.5ha ・更地での建設となるため、病院配置の自由度が高い ・将来の増改築等の拡張性について対応可能
	② 必要な医療の提供開始	必要な医療を提供できる時期について	・工事期間の長期化により、必要な医療の提供時期が移転する場合より遅れる	＜＜	・工事期間が現地建替より短期間であることから、必要な医療の提供時期が、現地建替より早期に提供できる
	③ 救急搬送への対応性	救急車（自家用車）のアクセス性について	・奈良医療圏からのアクセス性は六条山地区より優る ・西和医療圏からのアクセス性は六条山地区より劣る ・北和地域としては、六条山地区とほぼ同程度	＝	・奈良医療圏からのアクセス性は平松地区より劣る ・西和医療圏からのアクセス性は平松地区より優る ・北和地域としては、平松地区とほぼ同程度
	④ 公共交通のアクセス性	公共交通機関のアクセス性について	・最寄りの尼ヶ辻駅からバスで約4分 ・西大寺駅からのアクセスは六条山地区より優る ・富雄駅、大和郡山駅からのアクセスは六条山地区より劣る ・学園前駅からのアクセス性は六条山地区と同等	＝	・最寄りの西の京駅からバスで約6分 ・西大寺駅からのアクセスは平松地区より劣る ・富雄駅、大和郡山駅からのアクセスは平松地区より優る ・学園前駅からのアクセス性は平松地区と同等
	⑤ ヘリポートの整備	緊急時の対応として、ドクターヘリの受け入れのためのヘリポート設置の可能性について	・ドクターヘリは5回/日までの搬送であれば、騒音環境基準は満足 ・設置場所は屋上	＝	・ドクターヘリは16回/日までの搬送であれば、騒音環境基準は満足
	⑥ 災害時の収容スペースの確保	大災害発生時の負傷者等の救急収容のためのスペース確保など、災害時の対応性について	・屋内はスペース確保が可能 ・屋外は駐車場等を利用することになる	＜	・屋内、屋外共に、スペース確保が可能
経済性	① 事業費	新病院の整備に要する全体事業費について	・造成は不要 ・病院建築工事は段階施工となることから、仮設費や安全対策費が高くなる ・看護学校の仮移転が必要	＝	・土地の取得や造成が必要 ・病院建築工事に伴う仮設費や安全対策費は、現地建替より安くなる ・看護学校の仮移転は不要
周辺地域への影響	① 周辺地域に与える景観上の影響	新病院の整備が周辺地域に与える景観上の影響について	・敷地の南側住宅に接近して病棟（6F）が建設されるため、圧迫感等の影響あり	＜	・周辺住宅地から離れており、影響は比較的少ない
	② 日照阻害の影響	新病院の整備が周辺地域に与える日照阻害の影響について	・影響なし	＝	・影響なし
	③ 騒音の影響（ドクターヘリ）	ドクターヘリ騒音など、新病院の整備が周辺地域に与える騒音の影響について	・敷地が狭く、ヘリコプター騒音が周辺の住宅等に与える影響は六条山地区より大きい ・ヘリポートの位置や飛行ルートなどの配慮の余地が少ない	＜	・敷地が広く、ヘリコプター騒音が周辺の住宅等に与える影響は平松地区より小さい ・ヘリポートの位置や飛行ルートなどの配慮による軽減可能
工事中的影響	① 工事期間	整備場所の施工条件等を考慮した工事着手から新病院の供用までの工事期間について	・段階的な工事を繰り返して進める事になり、工事期間が長期化する ・工期は約8年半	＜＜	・造成工事が必要であるが、工事期間は現地建替より短い ・工期は約4年
	② 周辺地域への影響	工事の施工に係る周辺地域への影響について	・周辺の住宅地内を工事用の大型車両が通過する ・生活交通への支障や安全の確保、更には道路隣接住宅への影響など、多大な影響が考えられる	＜	・枚方大和郡山線から工事専用のアクセス道路を利用 ・周辺住宅地域への影響は少ない
	③ 診療への影響	現県立奈良病院の患者等に対する診療への影響について	・段階整備による入院患者の転床や外来患者の動線制限など病院利用者に対する影響がある ・工事に伴う騒音や振動等による診療への影響がある ・職場環境の悪化による医師、看護師などへの負担が大きい	＜＜	・影響なし
	④ その他	看護学校の運営に対する影響について	・看護学校の仮移転先と仮設校舎の整備が必要 ・看護学校の仮移転による看護師確保への影響が懸念される	＜	・影響なし
まちづくり	① 病院を中心としたまちづくり	病院を中心としたまちづくりの可能性について	・病院以外の整備は困難	＜	・病院との連携施設や緑地などの環境整備が可能

新県立奈良病院（六条山地区）の整備イメージ

◆整備の考え方◆

- 北和地域の高度医療を担う病院とあわせて、がんの緩和ケア病床（ホスピス）を整備
- 看護学校や保育所、宿泊施設など関連施設を整備
- 敷地全体を六条山地区が持つ豊かな自然を生かして整備



○新県立奈良病院の今後の検討方針

新県立奈良病院の建替整備については、以下の項目について引き続き検討を行い、基本計画を決定する方針。

第4回検討委員会（平成23年4月開催予定）

- 新病院の理念、基本方針について
- 新病院の病床数、診療機能、施設整備計画等について
- 新病院の事業収支計画について
- その他